

# CHIHO MEN NEWS



## 播磨連携中枢都市圏の 自転車観光による地域活性化支援！

「地域のために何かできることはないやろか？」を合言葉に活動を続けるTeamちほめん。

Teamちほめんとは近畿財務局の若手有志職員が、地域の課題解決のため何かお手伝いできないか、近畿2府4県各地にお邪魔し、様々な企画を提案し、スタッフとして実行させていただくおせっかいな団体です（ちほめんとは地方創生企画推進メンバーという長い名前の愛称です）。

今回は平成29年8月25日に姫路市で開催した「播磨連携中枢都市圏の自転車観光による地域活性化支援」の実施報告です。企画に至る経緯から当日までの様子を、地域の方の熱い思いも交えながら紹介させていただきます。

### 〇きっかけは立ち話から

今回の取り組みのきっかけは、コピー機順番待ちの立ち話からでした。但陽信金に、地方創生に熱心な担当者があるとの情報をキャッチ。地域金融機関に対し地方創生ヒアリングを順次実施していましたが、今回は「ちほめん」として、但陽信金にヒアリングしてみたいと上司に了解を得て、動いてみました。『自転車による観光振興』というテーマに絞った企画に辿り着くまでの道のりの始まりです。

平成29年  
**8月25日(金) 14:00～18:00**  
場所：イーグレひめじ（姫路市本町68番290）  
主催：姫路市・近畿財務局

### 播磨連携中枢都市圏の 自転車観光による地域活性化支援

【概要】  
「自転車」を通じた観光及び地域振興を図ろうとしている播磨連携中枢都市圏をサポート。  
「自転車」を活用したまちづくりに先進的に取り組み、サイクリストの呼び込みに成功している  
守山市役所の施策・ノウハウ等の講演を聴き、地域のキーパーソンで考えるワークショップを開催。

◆第1部 講演 14:00～15:00  
『自転車観光推進のための環境整備等の取組や課題、将来像について』  
講師：滋賀県 守山市役所 総合政策部長 山形 英幸氏

【略歴】  
滋賀県生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業後、住友信託銀行株式会社（現・三井住友信託銀行株式会社）入社。本支店勤務を経て、滋賀県庁に入庁。平成27年度より、守山市役所へ出向。守山市版地方創生総合戦略を策定。その柱の一つとして「自転車を軸とした観光振興」を推進。守山市長や自転車仲間とともに台湾一周を達成。

◆第2部 ワークショップ 15:15～16:45  
『播磨連携中枢都市圏における自転車を活用した街づくり  
～人を呼び込む方法～』  
メンバー：自治体、金融機関、地域のキーパーソン15名程度

◆第3部 交流会 17:00～18:00（交流会参加費：2,000円）

## ○ヒアリング～本当の地域の声・ニーズを求めて～

### 平成29年2月17日 但陽信金を往訪

事前情報のとおり、担当者はあらゆる方面で地方のためにと活動されているエネルギーな地域創生部の破魔副部長。そして「地方創生は息の長い取組みで、時間軸を長くもって考える必要がある。自己満足な取組みではなく、地域のニーズをよく聞き動くことが大切。」と熱く語られる姿に、当局の地方創生にかかるスタンスとも認識は一緒と感じました。但陽信金が取り組む地方創生、進めるにあたって隘路になっている点等をたくさん聞かせていただきました。

その中で我々が支援できる取組みは何か。検討した結果、但陽信金の取組みのひとつに日本遺産の認定を目指している「銀の馬車道プロジェクト」があり、当局としても平成29年2月に淡路島で「日本遺産を活用した地域活性化」についてのセミナーを実施済。何か共通のテーマで活かせるものがあるのではないかと思い、但陽信金から地元のキーパーソンと話を伺った方に話を聞きに行くことにしました。

### 平成29年3月31日播但沿線活性化協議会の小野代表を訪問

地域住民の声として、行政が取り組む地方創生について、県が取り組む銀の馬車道プロジェクトについても具体的な意見をたくさんいただきました。播但沿線活性化協議会は、文字通り播但線沿線の活性化を目的とする住民組織で様々な取組みをされています。そんな協議会が現在力を入れているのが、播但線のサイクリン化（車両にそのまま自転車を乗せられるようにした電車）。地域の特徴を活かし、沿線を自転車で活性化しようというものです。

こうした具体的な取組みを、地域住民が自発的に検討していることについて、当局としても何らかの支援ができれば、地域の方に喜んでもらえるのではないかと。なによりも、「業務上で直接的に当地に縁のない財務局が、取組みに関わってくれることにより、地域内外が改めて播但沿線を見直すいい機会になる。」という嬉しい言葉を聞き、着地点はイメージできていませんでしたが、何らかの形で支援する旨を宣言し、一旦帰庁しました。



## ○テーマ設定への迷い

その他にも可能な範囲で広げたヒアリング先で様々な要望、意見を聞いたところで、テーマは何か迷いに迷いました。銀の馬車道にかかる講師による講演会がこの地域、このタイミングで適当なのか…。サイクリン化には興味は持ったものの、自転車観光という馴染みのない分野に財務局として支援できるものなのか…。

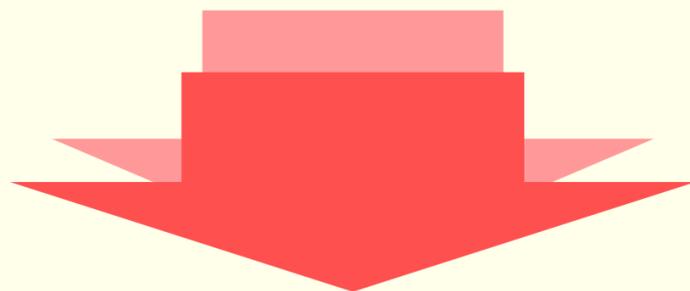
迷う我々でしたが、当局岸山総務部長が平成29年2月、播磨連携中枢都市圏の取組みを聞かせてもらうため姫路市に伺った際の資料を確認。すると、姫路市を中心とする播磨連携中枢都市圏（姫路市を含む地域8市8町での連携。播但線及び「銀の馬車道」のルートも当該8市8町に含まれる。）において、「はりまクラスター型サイクル事業」なる事業が、地方創生交付金を使って行われていることが判明しました。

## 平成29年4月28日 姫路市ヒアリング

そこで、今度は姫路市にアポをとり、地方創生推進室連携都市中枢都市推進室の高井室長に「はりまクラスター型サイクル事業」の概要や課題を聴取。ここでこれまでの全てがリンクしたような気がしました。播磨圏×自転車観光（サイクルトレイン）×銀の馬車道。よし、今回のテーマは「自転車」でいこう！とはいえ、少なからずの不安も残るまま企画案とともに上司に相談。「ええやん、今までやったことない分野で面白そうやし、地域が望んでいることならやってみたらいいと思う。」その一言で不安が自信に変わりました。

### ☆地域の背景

- ・年間200万人近い観光客を集める姫路城だが、7割は日帰り観光客。滞在観光が定着せず、そのチャンスを十分に活かし切れていない。
- ・姫路城の次に訪れたい観光地があっても、都心部と比較すると公共交通が発達しておらず移動手段が自転車に限られる場合が多い。
- ・外国人をはじめとする若い世代において、自転車による観光地めぐりは増加しているが、観光地間の移動手段の問題が指摘されているなど、播磨圏域全体で連携されていない現状。

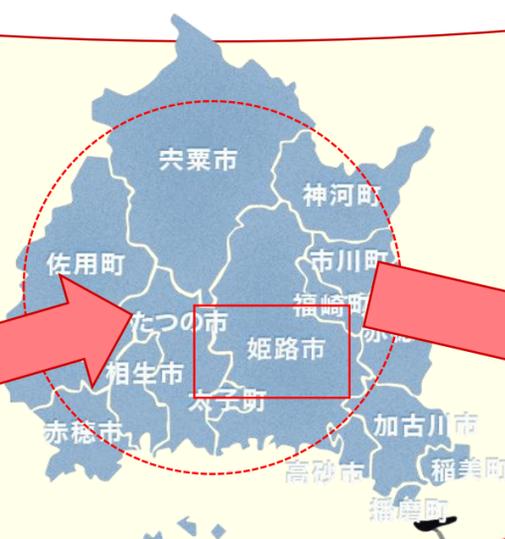


### 平成28年度 はりまクラスター型サイクルスタイルの構築

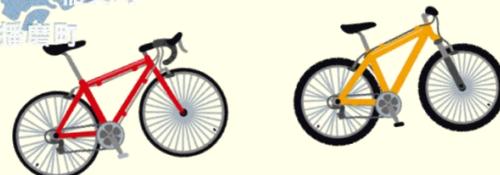
- ・播磨圏の8市8町の観光地を自転車をつなぐことで、観光客の行動範囲を広げるなど滞在時間の延長を目指す。姫路城以外の観光拠点を発掘し交流人口を増やす「姫路城プラスワン」を推進。



7割は日帰り観光客



自転車をつなぐことで  
観光客の行動範囲を広げる



## ☆播磨圏の自転車観光の推進に対する課題



- ▶ 地域住民の意識醸成が必要。（例えば、域内住民にとっては、公道の自転車走行は生活の邪魔であるといった否定的な意見がある一方で、自転車で観光客を呼び込むことは、お金を循環させ地域を潤すというメリットがあることを理解してもらう）
- ▶ 自転車観光の具体的な取組方法は未だ手探り状態であり、先行事例を知りたい。

企画案を作成し、姫路市及び今回のきっかけを与えてくれた但陽信金へ再び訪問。今回の企画は、大規模で華やかに開催するシンポジウムではなく、地域住民の意識醸成につながるような、地域企業や住民参加型の企画を実現させたい趣旨を説明。先方の思いも同じとのことと快諾をいただき、セミナー開催が決定しました。

### ○講師探し・当日までの調整

姫路市から自転車観光での成功事例を聞きたいという課題は分かったものの、四国で成功している『しまなみ海道』は報道では目にするけど人脈はないし…。近畿管内ではどうだろうと思い、自転車といえば、ビワイチで有名な滋賀県があると思いつきました。ここは近畿2府4県に財務事務所がある近畿財務局ならではの強み。早速、大津財務事務所へ相談したところ、「滋賀県の中でも守山市は市長が先頭に立ってビワイチの推進に力を入れている。先日も台湾の自転車メーカーGIANTの会長を招いた会合も開催していたくらいで相当力が入っている自治体と思う。」という前向きな情報をもらい、大津財務事務所から守山市へ橋渡しをしてもらいました。



### 平成29年5月18日 守山市へ訪問

熱い思いでビワイチの活性化に取り組んでいる地域振興課の杉本主任から、守山市の取組みについて聞かせていただきました。ぜひこの取組内容を今回の企画でお話しいただきたいとお願いすると、各地でノウハウを教えてほしいという声に応えセミナーの講師を務めておられる山形総合政策部長を紹介いただきました。山形部長からは「しまなみ海道と違って、うちは3年前から宮本市長主導でここまで進んできてまだ発展途上ですが、取り組んできた中での経験談や苦労話はたくさんあるのでそんな話でよければ、同じ自転車観光地を目指す地域の力になりたい、相互のPRでお互い活性化していきたい。」と当局の思いに共鳴いただき、講師を引き受けていただけることとなりました。

### ～こぼれ話～

今回の話とは別の話として、守山市は自転車観光地の相互PRという点で、淡路島の自治体と繋げてほしいという要望を聞きました。先述の淡路島での地方創生イベントをきっかけに淡路島とのネットワークがあった我々は、守山市と淡路島とパイプになる役目を約束しました。

講師が無事に決まれば、あとはロジ関係。日程や参加者との調整など、関係各所との細かい調整はイベント前日まで続きました。慣れないロジ関係で、何度見直しても最後まで不安はありましたが、当日手伝ってもらい、ちほめんメンバーにも自ら考えて動いてもらえるように情報共有し、チェックもお願いしました。そして、会場の予約、備品の手配等はすべて姫路市高井室長に先導して動いていただき、準備は万端となり、何とか当日を迎えました。

## ○当日の様子

午前から会場設営を行い、本番は午後。当日は、自治体、金融機関、自転車関係事業者を中心に46名の方に参加いただきました。

また、守山市との約束どおり、淡路島とのパイプをという要望を受けていたので、当局から、南あわじ市に声をかけさせていただくと、なんと南あわじ市から鳴門市の担当者にもお声かけいただき参加の運びとなりました。



## ☆企画案のポイント

### ①テーマを絞った企画の提案

播磨地域の広域観光連携事業の実現化のため実際に進めている『はりまクラスター型サイクルスタイルの構築事業』を具体的に推進していくためのプランの提示。

### ②メンバーは、真に問題意識を持った自治体関係者及び地域のキーパーソンに参加依頼

よりテーマを掘り下げるため、自治体関係者の班と、事業を進める企業者・住民による班の2班制とし、地域の課題を講師に投げかけ解決策を探るワークショップを開催。

### ③地域の持つ課題に対し、一步先をいく取組事例・ノウハウを紹介いただける講師

近畿管内での先行ノウハウを有するキーパーソンを、財務局のネットワークを駆使して紹介。今後二ツチな自転車事業を媒介に連携できる広域連携の構築に期待。



第1部の講演会の冒頭の挨拶は、姫路市の地方創生推進室の福田室長からいただくことに。今回の企画が今後播磨圏で自転車観光を盛り上げていくスタートになればというお話とともに、当局のちほめんについての紹介までいただき、講演会の開幕となりました。

今回の講師、守山市総合政策部長 山形英幸氏の講演では、まずは目で見てビワイチを知ってほしいとビワイチPR動画が流されました。引き続き、守山市の地方創生を目的とするビワイチ活性化に関する今日までの取組み・ノウハウを具体的に丁寧にお話いただきました。

## 第1部：講演概要

### 1. 守山市の地方創生「自転車を軸とした観光振興」

守山市の「自転車を軸とした観光振興」は、地方創生が出発点。平成26年に地方創生総合戦略の柱の一つとして、琵琶湖大橋のたもとに位置する立地特性を活かし、琵琶湖一周サイクリング“ビワイチ”の拠点として、自転車のまちづくりを目指すことになった。



サイクリストの聖地「しまなみ」の成功モデルを追いかけようと東大自転車部出身の宮本市長のリーダーシップのもと、地域の「強み」と「機会」を考え抜いた自転車施策を展開。地域の強みは、日本一の湖、琵琶湖。高低差が少ない地形や穏やかな気候で、女性や初心者も走りやすいという点。また、「しまなみ街道」に世界最大の自転車メーカーGIANT（台湾のメーカー）の店舗がオープンしたことが成功の契機となったことから、市長自ら台湾を訪問（私費）するなど、様々な機会を捉え、GIANT店舗の誘致に成功。しまなみ海道に次ぐサイクリストの聖地となるよう、観光振興と走行環境の整備に動き出している。

### 2. 具体的な取組事例の紹介

自転車政策推進にあっては、行政主導のハード面（走行環境整備）と民間連携のソフト面（サービス・おもてなし）のどちらも必要であり、また、観光振興（誘致）と市民活動（機運）の両面を追求する視点も不可欠。

- アクセスバス事業：バス会社や地域企業との連携事業でJR京都駅から当地への直通バスを運行  
⇒自転車をそのまま車載することができ、サイクリストの利便性を図る。
- 自転車購入補助制度：幼児同乗自転車からスポーツ用自転車まで購入費用に対し補助  
⇒観光という外向きの施策と並行し、市民にも自転車を身近に使ってもらうための施策。
- 「聖地の碑」設置事業：ビワイチの起点スポットを目指し、美しい風景を望む守山市湖岸に設置  
⇒フォトジェニックがキーワードの時世に合わせて、撮影スポットを提供。
- ビワイチ守山プロモーション事業：ポスター、PR動画、パンフレット作成などにより情報配信  
⇒宣伝効果にこだわり様々なツールにより情報を発信。



### 3. 今後の取組方針について



山形部長：自転車仲間と台湾一周も達成

「しまなみ海道」を追いかけ、とにかく認知を！との思いで各種施策を推進してきたが、自転車が単なるブームではなく、新たな文化として認知されつつある今、この機会を活かし、地方創生の目的である経済活性化につなげていきたい。次のステージでは、①自治体間連携の強化、②民間企業との連携の強化、③広域連携によるインバウンド誘致の3つの戦略的連携による事業拡大を意識し、引き続きビワイチの活性化と自転車観光を軸とした観光振興に取り組んでいきたい。

引き続き第2部では、自治体職員がメインのAグループと自転車事業者メインのBグループの2班に分かれ、「自転車を活用したまちづくり」をテーマにワークショップを実施。1部の講演会講師の山形部長、同じ守山市役所の杉本主任にもワークショップに参加していただき、参加者からは各々が取り組む事業などに関する質問が多数され、講師が一つ一つ丁寧に答えることで、参加者はしっかりとノウハウを習得されている様子が見られました。

## 第2部：ワークショップの概要（参加者の主な発言事例）

### A班（自治体職員等の参加）

#### 【神姫バス株式会社】

講演のなかで、いろいろな企業を巻き込みながら進めることが重要との話があったが、どのような機会に接点を持っているのか。

➡トップセールスは効果的。企業の役員に会いにいき自転車の話をすると、実はその人もサイクリストということがある。その方を巻き込んで一緒に乗ると早い。そうでなくても、一緒に乗りませんかというところから話を切り出し、半日でも一緒にサイクリングすれば「チャリ友」になれる。

#### 【姫路市役所】

講演にあった自転車の購入補助制度について、当該制度のみならず、事業者や地元の理解が必要だと思料するが、その点どのように理解を求めたのか。

➡外からの観光誘致だけでなく、市民の機運醸成も不可欠。市民にとって自転車が身近になるきっかけとなる制度として取組みをはじめ、事業者や地元理解をいただいた。

#### 【播但沿線活性化協議会】

サイクルトレインについて、せっかくJRが通っているのだから活用したい。しかしかなりハードルが高い。それでも、同じJR西日本でしまなみ海道という実例があり、やれないことはない。サイクルトレイン導入に向けて何かアドバイスいただけることはあるか。

➡JRはいろいろな企画が持ち込まれると思われ、具体的な提案が大事だと思う。守山市は駅リンクくん（JRのレンタサイクル）にスポーツタイプを導入したいという提案を持っていった。他地域における成功事例を持っていくといった工夫も有効だと思う。



#### 【宍粟市役所】

女性の取込みで何かアイディアはないか。何か前例があればご教示いただきたい。

➡女性はスイーツ。当地には、クラブハリエというバウムクーヘンで有名な事業者があり、同社の女性の社会部長に本市主催の自転車イベントに参加いただき、同社が運営する「ラコリーナ」という施設をゴールにして、そこでスイーツを食べることをテーマにしたイベントを実施した。ちなみに男は焼肉で攻める。

### 【宍粟市役所】

守山市がしまなみ海道を追いかけて参考にされているということと同様に考えているが、何から手をつけたらいいかわからないという段階。これから自転車観光で売っていきこうという立ち上げ段階で、決め手になるものがあれば助言いただきたい。

➡メディアに取り上げてもらうということは重要なこと。どうすればメディアが取り上げてくれるのか、逆算で考えることが大事。そうした時に、乗り物系は取り上げてくれる可能性が高い。講演で挙げた漁船タクシーやアクセスバスといった乗り物は相性がいい。

### 【加西市役所】

うちの市では取り組み始めたばかりで、まだまだこれからというところ。今の課題はいかにして市民を取り込むかということ。市内に自転車に取り組む団体がない状況であるが、市民を自然に取り込むために何かアドバイスはないか。

➡守山市では経済活性化に繋がらなかったため、宿泊業者等サイクリストが望むような事業に協力してくれる方を中心に団体を作ろうとしたが、そこまでは至っていない。一足飛びにはいかないの順番にやっていく。理想は、市民と市役所職員が協働して一緒に団体を作ること。これができれば、機運が高まる。



### 【赤穂市役所】

インバウンドについて、台湾におけるプロモーターのサイクルツアーへの食いつきはどうか。

➡エージェント回りをしないので食いつきはわからないが、台湾が自転車ブームなのは間違いない。台湾の人口2,200万人程度のうち、半分は年に一度は海外に行くという。そのなかでも最も多いのは日本であるから、いいお客さんである。エージェントはお互い横目で見ている、1社のツアーがモデル化すればすぐに類似のツアーが組まれる。だから一度火が点いたら早い。インバウンド戦略は来年度以降と割り切っている。それよりも、国内で認知されることを優先している。

### 【但陽信用金庫】

市町村という基礎自治体間での連携で隘路はないか。

➡観光資源は各自治体それぞれあるので、うまく取り込みたいし、手を取り合ってやっていきたいが、全ての自治体と一緒にやるのは簡単ではないのが現実。関心のあるところと、さらに深く連携していくことも大事だと思う。県と5つの市で地方創生加速化交付金を獲得したが、共同事業がなく、それぞれが動いている状態。本当は一緒にやりたいし、そういう取り組みを見出したい。連携できるなら、いくらでもアイデアはあるが、実行には至っていない。周辺自治体とは、何か共同記者発表できるような仕事をしたいと考えている。

## B班（地域事業者等の参加）

### 【播磨クラスターサイクル】

自分自身サイクリング歴1年ほどだが、トイレの場所やパンクの修理など不安が多い。講演で女性や初心者にやさしい自転車という取組みをされているとの話だったが、具体的な取組みはあるか。  
➡実はビワイチはそこがあまりできていない。ただ、悪い面をあまり言うと、広告として良くない。まずは「ビワイチは女性や初心者も走りやすい。」と認知してもらうことが大事と考え、琵琶湖の美しさとともに、平坦で女性も走りやすいことをPRした動画を作成し、「女性・初心者にやさしい」というキャッチフレーズをPRしていった。守山市独自の取組みとしては、困っているサイクリストをタクシーで助けに行く体制を作っているほか、滋賀県では、県内のコンビニや道の駅、ホテルなど100カ所以上にトイレ使用はもちろん、自転車工具や空気入れを貸し出せる受け入れ体制づくりとしてサイクルサポートステーション事業に取り組まれており、こうした情報も本市も県外に向けPRしている。



### 【播磨クラスターサイクル】

姫路から行くにあたって、生野峠だけが上りなので、そこは輪行袋で自転車を別の移動手段で運んだり、播但線がサイクリートレインになって、下りだけを自転車に乗ることができればと考えている。

兵庫県は同一県で日本海と太平洋を縦断できる唯一の県。それが銀の馬車道にも重なっているため、それを強みにしていければと考えている。

➡銀の馬車道という軸があるなら、姫路駅から一本の道を軸（ビワイチのようなもの）として、それ以外にフィールドの中でコースを作っても面白いと思う。ビワイチという価値の高いコンテンツは大切だが、ビワイチだけでなく、県全体を楽しめるフィールドを作り、何度も地域に来てもらうことが大事。また施策をする際に、誰をターゲットにするのかを明確に意識することも大事。

### 【大久保製作所】

当社が宍粟市に聖地のようなスポットを建設しようとしているが、周辺のトイレ整備が課題。

またサイクルラックを置けばサイクリストが来てくれるのではないかと考え、地元高校の林業課と協力してラックを作成した。

➡最初から全ての施設を100点満点で整備する必要はなく、スポットを認知してもらってから、そこに来た人が何を要望するかで改善していけば良いと思う。

またサイクルラックを置けばサイクリストが自然と集まるわけではなく、地元や他の施設利用者からするとむしろ邪魔な面もある。例をあげると守山市は地元を巻き込みながら進められるよう、地元に仕事を作るのが地方創生の大きなテーマでもあるので、まず滋賀県森林組合に安く間伐材を分けてもらい、地元の家具屋にデザインを依頼し、社会福祉作業所に依頼した。地域にとっても、自分たちのつくったものが地域の役に立つことはちょっとした喜びや誇りにつながり、結果として利用者やメディアにもたくさん取り上げられPRにもなった。せっきやく林業課があるなら、それを活用することはいいと思う。

### 【株式会社JTB姫路支店】

事業においては、どうしても成果が求められがちだが、守山市として成功をどこに捉えているのか。

➡外向きには、目標にしてきたしまなみ海道に追いつくこと。内向きには、市民から自発的な動きが出てくれること。また滋賀県内の他市とも連携して事業が進められること。

## 第3部：交流会

第3部：交流会は、真っ白な姫路城が綺麗に見える会場でした。冒頭には、今回企画の段階から参加者の調整まで多大な御協力をいただいた但陽信用金庫地域創生部の破魔副部長から開会のあいさつをいただきました。守山市役所のお二方にもご参加いただき、自治体関係者、事業者が、第2部のワークショップでは聞ききれなかった講師への質問が行われるなど、和気あいあいと楽しい雰囲気で行うなど交流が進んでいきました。

以下、参加者の方からの交流会での声とアンケート意見となります。



◆当会では、地元の活性化に繋がっていきたいとの思いから播但沿線の駅でビアホールを開催している。今回の自転車と播但線とで、何かできないか考えたい。（播但沿線協議会 小野代表）

◆当金庫は、トップ自ら「儲けや結果にこだわらずに地域のためになることをやろう」というメッセージを打ち出しており積極的に動いている。形だけでなく上記のようなビジョンを持ってまず行動に移すことが重要と考える。（但陽信用金庫地域創生部 破魔副部長）



◆財務局の方々が、今回のような会を開いていただくのはありがたい。地方公共団体から見た財務局のイメージが変わるのではないかと思う。（守山市 山形総合政策部長）

◆播磨地域が積極的に自転車観光に乗り出していけば、地理的な条件や既存の観光資源の知名度から十分にサイクリストを呼び込めると思うし、連携していきたい。（守山市地域振興課 杉本主任）

◆経済活性化というゴール（目標）を明確にした上での取組みが大変参考になった。地元企業はもちろんですが、市民を巻き込む手段についてもご教示いただけると幸い。（加古川市職員）

◆たくさんの取組みについて知ることができ大変興味深かった。走行環境についても話が聞きたい。（姫路市職員）

◆近畿財務局でこのような取組みを行っていることは知らなかった。地域の課題を起点に課題解決に向けたイベントを行うのは大変良いと思った。今回の自転車もそうだが、当市でも古民家活用の課題も抱えており、先日滋賀県でセミナーを開催したと聞いたので、その際の事業者を紹介いただくなどまた協力いただきたい。（宍粟市職員）

◆守山市の取組みの講演は非常に分かりやすく大変興味深かった。民間企業として是非サポートさせて頂きたい。（三井住友銀行職員）

◆実際に汗をかいている方のお話しを聞くことができ、取組みに対する熱意等についても参考になった。（佐用町職員）

◆昨年度大津で実施した観光振興イベント（古民家活用による観光振興@彦根市）では、大型イベントで達成感があったものの、どうしても参加者と講師との距離感が出てしまい本当に課題解決のための取っ掛かりをつかめたか疑問があったが、今回のイベントの様な規模感で参加者が本当に聞きたいことができる雰囲気作り、運営を行っていくことも大切と感じた。（チームサイクリスト 和田）



楽しい会はあっという間に過ぎ、最後は神戸財務事務所の石川所長からの締め挨拶で無事閉会となりました。今回は企画段階から守山市へ橋渡しをしてもらった大津財務事務所から下井所長も参加し、ちほめんだけでなく、財務局一体となった支援をいただきました。



## ○最後に

今回も地域で抱える課題解決の一助になればとの思いから始動し、ニーズの把握、それに効果的な企画づくりを念頭に進めてきました。結果、当初は想定もしていなかった自転車観光というテーマに辿り着くことに。途中、迷いや不安もありましたが、「地域のためになること」「自己満足な取組にはならないこと」を常に頭に置きながら進めていきました。そして今回も地域活性化に真剣に取り組む担当者との出会いがたくさんあり、そこから新たなきっかけ、新たな繋がりが生まれました。

播磨地域での取組みでしたが、この企画を通し、同じテーマ・課題に取り組む、滋賀・淡路島・四国の担当者同士の繋がりもできたことは、地域から喜ばれ感謝されたところであり、我々にとっても大きな財産です。

また、息の長い取組みである地方創生においては、今回の播磨圏における自転車観光もスタートをきった段階に過ぎません。今回の企画での講演内容・ワークショップでの議論をきっかけに、今後参加いただいた事業者・金融機関・自治体等が連携し地方創生に繋がる事業が展開されることを期待しています。そしてそのためにも、当局として引き続き参加者へのフォローアップをはじめ、次のステップでの支援企画の検討に取り組んでいきたいと思っております。

今回の企画でお世話になった方々、本当にありがとうございました。

守山市 山形総合政策部長

守山市地域振興課 杉本主任

姫路市地方創生推進室 福田室長

姫路市地方創生推進室連携都市中枢都市推進室 高井室長

但陽信用金庫地域創生部 破魔副部長

播但沿線活性化協議会 小野代表

ワークショップに参加の皆さま

チームサイクリスト一同。

狩野、遠山、向日、内田、川岸、和田

